



ウミガラス (オロロン鳥)

絶滅が危惧されている
天売島でしか見られない海鳥

ウミガラスは、鳴き声が「オロロン」と聞こえたところから「オロロン鳥」とも呼ばれています。北太平洋や北大西洋の亜寒帯海域に広く分布する全長40cmあまりの海鳥で、スタイルがペンギンによく似ていることでも知られています。これまで世界で5~7亜種が確認されていますが、日本で子育てする種類は日本からロシア、ブリティッシュコロンビアにかけて分布しています。

昭和13年(1938年)、『天売島の海鳥群集』が国の天然記念物の指定を受けたときには4万羽以上いたとされ、ほかの島でも繁殖していました。しかし、その後数が激減し、現在日本では天売島だけとなりました。環境省のレッドデータブックでは、ごく近い将来に絶滅の危険性が極めて高い絶滅危惧1A類に指定されています。激減の理由の一つとしては1960年代から70年代にかけて島周辺で盛んに行われたサケ・マス流し網漁業による混獲が指摘されています。ウミガラスは潜水の名手です。そして、水中で両翼を羽ばたかせながら水中飛翔して魚を追います。そのため海鳥の中でもっとも漁網にかかりやすかったのです。

ウミガラスは海に面した断崖の岩棚に群れをつくって集団営巣します。ウミガラスの絶滅をくい止めるため、かつての繁殖岩にウミガラスの鳥模型(デコイ)を設置し、ウミガラスの鳴き声を流して誘因作戦を展開した結果、平成6年(1994年)に初めてデコイ設置場所でウミガラスの繁殖が確認されました。現在、赤岩対岸で見られます。好運に恵まれれば、海上からの観察も可能です。

五感で感じる！ 風土資産の魅力



ウミガラスは主にコウナゴ(イカナゴの稚魚)、イワシ、ギンポ、カジカ、ニシン、イカなどを捕食します。水中を飛ぶように泳ぐ「水中飛翔」をして魚を獲ります。ウミガラスの求愛行動は一味変わっており、オス・メスが相互に「おじぎ」を行います。

見どころ

天売島最西端にある赤岩展望台からは、海拔48mの垂直岩「赤岩」や多数の海鳥が観察できます。5~7月の繁殖期にはウトウやウミネコなどの子育ての様子を見ることが出来ます。ウミガラスは赤岩の対岸などが繁殖地で、運が良ければ海上からその姿を見ることが出来ます。

ポイント

鳴き声が「オロロン」と聞こえたところから「オロロン鳥」とも呼ばれ、スタイルがペンギンによく似ています。環境省のレッドデータブックでは、ごく近い将来に絶滅の危険性が極めて高い絶滅危惧1A類に指定されています。

■基本情報(R1.5)

和名：ウミガラス
学名：Uria aalge
種名：チドリ目/ウミスズメ科
寿命：20年以上
絶滅指標：絶滅危惧種